

◆ 考 察 【児童・生徒アンケートから】

○スマホ等の所有（使用）割合と使用開始時期 [設問1]

・全体では75%程度であるが、小学校高学年から中学生の所持（使用）率は90%近くあると言える。中学校になると、半数以上の生徒が自分のスマホを所有している。

○インターネット等の利用とトラブル [設問2,3]

・これも、全体では65%程度であるが、中学生になると85%以上の生徒が利用しており、ゲーム等もネット使用がメインになっていることが分かる。
・トラブルに関する困り感や体験は少ないが、攻撃的な言葉や、誤解によるトラブルの芽が散見できる。

○親による使用コントロール [設問4]

・概ね25%の児童生徒が「親の知らないことがある」と回答している。保護者の感覚と比較してみたい項目である。

○チャットアプリの使用経験 [設問5]

・チャットアプリを使用した経験のある児童生徒は65%程度であるが、中学生に限るとその使用率は80%を越える。「どんなチャットアプリを使ったことがあるか」の設問で得られた結果と合わせて考察すると、仲間内のチャット（会話）より、不特定多数とのチャット経験の方が遙かに多いと考えられる。

小学校低学年でも、およそ25%が経験していることを考えると怖い気もする。

○使用アプリ [設問6,7]

・ラインの利用率は高い。ゲームがほとんどであるが、その中には現在問題が報告されているアプリも多数あり、その利用率が高い事は問題視される。

例)

ティックトック…動画投稿サイト（個人情報漏洩、性的被害報告等あり）

荒野行動…無差別殺戮オンラインゲーム

斉藤さん…不特定多数とのチャットアプリ（個人情報漏洩、性的被害報告等あり）

◆ 結 論

・現在、豊北地区の小中学生で自分専用のスマホ等通信機器を持っている児童生徒は60%程度あり、そのうち1/4は親の知らない使い方をしている可能性がある。今のところトラブルの発生は非常に少なく、常識的な使い方をしていると思われるが、問題が指摘されているアプリを使用している児童生徒は少なくない。

・スマホ等使用の若年齢化は今後も進むと考えられ、児童生徒への使用上の注意喚起や、危険なアプリの周知が必要である。しかし、新しいアプリは次々と開発拡散されるので、我々の情報収集や共有は常に後追いになることは十分に考えられる。

従って、情報モラル教育や言葉の使い方の教育、匿名であっても不正義な言動を恥と感じ自制できる道徳的な実践力を高める教育を今後も続けていくことが、教職員、地域、保護者の現実的な役割になると考える。